



東中コミュニティ・スクール

～ 地域とともにある学校づくり ～



東中学校は、平成 26 年度に「コミュニティ・スクール」に指定され、学校と地域が連携して子どもを育てる取組をしてきました。それを土台にして、平成 28 年度からは新たに、地域住民が ①学校運営参画、②学校支援・地域貢献、③学校関係者評価 を一体的・持続的に実施していく仕組みを『東中コミュニティ・スクール』として整え、学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいます。

なお、②学校支援・地域貢献については、東中学校区地域協育ネット（通称：「ふるさと愛ネット」）が母体となり、東小・装港小・小瀬小学校と協働で取り組んでいます。

また、平成 28 年度からは、3 小学校との連携・協働をさらに加速化させ、令和 2 年度から導入された「小中一貫教育」を一層推進させます。令和 2 年 9 月には施設一体・分離型を併設した「小中一貫教育校」として再スタートを切り、今年度は成果を積み上げる年と位置づけています。



第 1 章 東中コミュニティ・スクールとは？

東中コミュニティ・スクールとは、地域住民の皆さんに、日常的に学校に来て、子どもたちのことを支援していただくとともに、子どもの教育や学校運営について話し合うなど、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みをもった地域とともにある学校です。

活動スローガンは、

「ふるさと愛ネットで育てよう！

～ふるさとを愛し、ふるさとからも愛される地域の子～」です。

◆ 学校運営協議会とは？

地域住民と教職員が、子どもたちの将来あるべき姿について、「熟議」等による話し合いをする場です。

主に、三つの機能があります。

- ① 学校運営への参画の在り方
- ② 学校支援・地域貢献の在り方
- ③ 学校関係者評価

学校運営協議会委員には、地域住民や保護者が含まれます。「地域ぐるみで子どもを育てる」という趣旨を理解し、熱意ある優れた人材を選び、教育委員会が任命します。

ふるさと愛ネットの活動は、主に、学校運営の地域連携という分野です。

◆ 東中CSの特色は？

- 学校運営協議会においては、学校課題全般に対する承認・意見・助言を行います。生徒指導上の問題・人材育成・綱紀保持等を含みます。
- 学校運営協議会とは別組織として、地域連携を担う「ふるさと愛ネット」を設置し、学校運営協議会の承認・助言・指導を受けながら、これまでと同様に、学校と地域の相互支援活動を行います。
- 3 小学校及び、保育園・幼稚園との連携・交流を促進し、地域ぐるみで子どもを育てる雰囲気醸成します。

第 2 章 今なぜ、地域との連携なのでしょう？

現在の社会は、変動が激しく、加えて少子高齢化が大きな社会問題となっています。そこで、このような状況を踏まえ、地域との連携（開かれた信頼される学校づくり）の必要性が以下の視点から高まっています。



- 社会が複雑化し、多様なニーズを抱える学校教育の質的・量的な充実を図るため
- 社会的自立につながる体験・交流や、郷土への愛着心を育む地域学習を進めるため
- 地域住民の生きがいや学びの場づくりのため
- 過疎化や高齢化、絆（きずな：結びつき）の低下の中で、学校を核とした地域の活性化や地域の教育力の向上のため
- 教職員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒指導上の諸課題の解決に資するため

第3章 学校運営協議会の機能（役割）とは何でしょうか？

■ 東中学校運営協議会の三つの柱



① 学校運営参画

めざす子ども像や学校の重点目標、学校が抱える課題等、学校運営全般について話し合う場です。
そこで出された意見を、学校は有効なアドバイスと受け止め、積極的に学校運営に生かします。



② 学校支援・地域貢献

地域協育協議会が推進する地域連携活動：「ふるさと愛ネット」について、年間計画や相互支援活動などの承認、及び、指導・助言・支援を行います。
また、適宜、活動に参画し、その維持・発展に寄与します。
なお、活動においては、マスコットキャラクターを、「アイちゃん」と命名し、啓発に努めます。



③ 学校関係者評価

学校が行う学校評価など（生徒・保護者・教職員アンケート）について、評価項目の妥当性及び、結果を考察し、課題の解決に向けて指導・助言をします。

■ 三つの柱を一体化させることで

【学校のメリット】

- ☆ 学校支援ボランティアを通じて、学校や子どもたちのことを理解していただける方々から有効なアドバイスが得られる。
- ☆ 学校の重点課題を共有していただくとともに、一緒に解決策を考えていただける。

【地域のメリット】

- ☆ 話し合いで共有したこと、意見として出したことを、自らの支援活動にも反映させ、取り組んでいける。

■ 学校運営協議会の構成

地域代表、保護者、学校支援ボランティア代表等、子どもの育成に関わる方々になっていただきます。

- 地域の代表者
- 地域の社会福祉関係者
- 保護者の代表者（育友会）
- コーディネーター
- 学校代表（校長） 等

第4章 学校は、コミュニティ・スクールでどのように変わるのでしょうか？

東中コミュニティ・スクールを整え、学校と地域住民の協働による地域とともにある学校を実現することにより、以下のことがこれまで以上に充実することが期待できます。
今後は、コミュニティ・スクールと小中一貫教育が両輪となって学校運営を行います。

- 多様な地域の方と触れ合うことで、人と関わる力を高めたり、生きる目的や目標をつかんだりして、社会で生きていく力を高める。
- 地域の人・もの・ことに触れることで地域のよさを実感し、地域に愛着を深める。
- 地域の人からの賞賛により、子どもに自己肯定感・自尊感情が生まれ、学習意欲や学力の向上につながる。

- 地域や保護者との信頼関係が深まる。
- 学校課題を地域全体で取り組むことで、課題解決につながる。
- 学校教育が質的にも量的にも充実する。（体験交流、授業補助、環境整備等）
- 専門的な技能や経験をもつ地域の方と交流したり、地域素材を教材にしたりすることで、教員の資質向上につながる。

- 学校支援をきっかけに、地域においても地域全体で子どもを育てる気運が高まり、地域や家庭の教育力が向上する。
 - 子どもを縁に、地域の絆が深まり、地域が活性化する。（元気になる）
 - 子どもに教えたり、触れ合ったりすることで、地域住民の成長や生きがいにもつながる。
- 【生涯学習の充実】

